

総合型選抜 2022 年度過去問題 建築デザイン学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

『国立西洋美術館 近代建築に光当てる遺産登録』

2016年、国民に親しまれている近代建築が世界に認められた。朗報である。

東京・上野公園の国立西洋美術館が、世界文化遺産に登録された。トルコのイスタンブールで開催された国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会で決まった。この時のクーデター未遂の影響で、審議が大幅に遅れた末の決定となった。過去2回にわたる登録見送りを経て、念願がかなった。国内では16件目の文化遺産となる。

20世紀を代表するフランスの建築家、ル・コルビュジエ（Le Corbusier、1887～1965）の作品だ。日本をはじめ、仏独やアルゼンチンなど計7か国が共同推薦していた17点の一つである。コルビュジエは近代建築の先駆者として名高い。コンクリートやガラスなど大量生産可能な建材を多用し、合理性や機能性を重視した。その設計思想は、時代の要請と合致していたと言えよう。今回、文化遺産登録が決まったのも、グローバルに展開された建築文化が評価されたためだ。大陸をまたいで登録は、世界文化遺産史上初めてのケースである。

西洋美術館は、東アジアで唯一の構成資産となった。実業家の松方幸次郎が戦前、フランスで収集した作品を収蔵・展示する目的で、1959年に建設された。らせん状に回廊を配し、建物を外側に増築できるようにした「無限成長美術館」の発想に基づく。建物を支柱で持ち上げた構造も特徴だ。これらの意匠を箱型のフォルムに取り入れている。コルビュジエの美術館建築の完成形とされる作品だけに、日本にとって大きな財産だ。坂倉準三、前川国男ら著名な門下生を輩出したことで、コルビュジエは、日本の近代建築の礎になったとも言えるだろう。

世界の主な遺跡や歴史的建造物の文化遺産登録は、ほぼ終了している。今後は近現代の建築が対象になる可能性が高い。64年の東京五輪会場として、丹下健三が設計した国立代々木第1体育館（東京都渋谷区）の登録を目指す運動も始まっている。

日本ではこれまで、近現代建築を文化財として保護しようという発想が乏しかった。今回の西洋美術館の登録を、近現代建築の価値を再認識する契機としたい。たとえば、上野公園には、美術館や博物館が集中する。この一帯を国際文化都市・東京の顔にしようという構想が進む。新たな世界遺産の誕生を都市の活性化に生かしたい。

（出展：読売新聞 2016年07月20日朝刊〔社説〕。ただし、文章の一部に変更を加えている）

問1 筆者の意図を300字以内で要約しなさい（字数には句読点を含む）。

問2 近現代建築を文化財として保護することにどのような意義があるか、また保護を推進するにはどうしたらよいか、あなた自身の自由な意見を500字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。